

昔の或る日、非常に遠くから船に乗って旅をしていた人々がいた。彼らは、コモロのような場所に行ったと思ったが、そこで船が転覆した。転覆した時、彼らは泳ぎ始め、最初の日に殆ど或る島に上陸しかけたが、風と雨とひどい寒さで海の方に押し戻された。進もうとする度に戻されてしまった。

「どうしたらいいのだろう？」。

そこで彼らは祈り、涙を流して懇願したが、何人かは亡くなった。

「どうしたらいいのだろう？」。

「どうしよう？」。

「どうやって戻ろう？」。

そのうち、ひとりが言った。

「僕が行く」。

彼が行くと言った時、仲間たちが言った。

「行かないほうがいい。とても深いからだ。それでも行くとしたら、ろくなことはない」。

「でも、僕はどうしたらいいんだ？」。

それで彼は言った。

「僕は行く」。

彼は板を腹の下においた。ほんの少し進む間もなく、彼は溺れ死んだ。